

たなかまる 田中丸コレクション からつ たかとり 唐津と高取

会期 2019年5月28日|火|-2019年7月28日|日|

会場 古美術企画展示室

共催 一般財団法人田中丸コレクション



出品No.3 唐津焼 重文 絵唐津菖蒲文茶碗



出品No.23 唐津焼 三島唐津水指



出品No.34 高取焼 藁灰釉緑釉流四方耳付水指 銘「若葉雨」



出品No.42 高取焼 筋文茶碗

九州を代表する唐津焼と高取焼は、桃山時代（美術史区分/1573-1615）に朝鮮半島の陶工によって始められました。日常生活に欠かせない壺や甕、片口、碗、皿などのほかに茶の湯で用いる茶碗や水指、茶入、向付など茶陶の生産を始めますが、この背景には1580年代に千利休によって大成された侘茶の流行により、それまで主流を占めた唐物（中国製）に代わって高麗物（朝鮮製）や和物（日本製）茶陶が主流になり、続く1590年代から1610年代にかけて、その流れを推し進めた古田織部の茶風によって和物茶陶の需要がより一層高まったことによります。そうしたなかで開窯した唐津焼や高取焼は割竹式登窯や蹴轆轤、叩き成形、藁灰釉、鉄絵付など朝鮮半島の窯業技術と当時の茶の湯の美意識が相まって、それまでにない日本独自の器を生みだしていきました。

今回は桃山時代から江戸時代にかけて、わが国のやきものの器種、形、文様を大きく前進させた唐津焼と高取焼にスポットを当て、時代の流行や茶風の移り変わりを観ようとするものです。

27 高取焼
— 藁灰釉肩衝茶入※
福岡藩領 永満寺宅間窯
高さ8.5 胴径6.6cm
桃山時代
1600-1610年代

28 高取焼
— 藁灰釉肩衝茶入※
福岡藩領 永満寺宅間窯
高さ9.0 胴径6.9cm
桃山時代
1600-1610年代

29 高取焼
— 掛分割高台沓茶碗 「王」字銘※
福岡藩領 内ヶ磯窯
高さ7.7 口径14.8cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

30 高取焼
— 飴釉肩衝茶入
福岡藩領 内ヶ磯窯
高さ9.1 胴径5.8cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

31 高取焼
— 飴釉耳付茶入※
福岡藩領 内ヶ磯窯
高さ9.2 胴径6.5cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

32 高取焼
— 褐釉耳付花入
福岡藩領 内ヶ磯窯
高さ26.9 底径12.8cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

33 高取焼
— 藁灰釉緑斑耳付水指※
福岡藩領 内ヶ磯窯
高さ18.5 胴径17.7cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

34 高取焼
— 藁灰釉緑釉流四方耳付水指
銘「若葉雨」
福岡藩領 内ヶ磯窯
高さ19.1 底径15.3cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

35 高取焼
— 飴釉耳付水指
福岡藩領 内ヶ磯窯
高さ19.5 胴径17.4cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

36 高取焼
— 飴釉耳付建水 「王」字銘
福岡藩領 内ヶ磯窯
高さ8.7 胴径16.8cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

37 高取焼
— 藁灰釉手付水注
福岡藩領 内ヶ磯窯
総高20.0 胴径16.3cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

38 高取焼
— 掛分阿古陀形香炉
福岡藩領 内ヶ磯窯
高さ11.0 胴径12.2cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

39 高取焼
— 藁灰釉透文手付台鉢※
福岡藩領 内ヶ磯窯
高さ20.0 最大径26.1cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

40 高取焼
— 掛分結文形足付向付 五客※
福岡藩領 内ヶ磯窯
高さ4.2 最大幅19.1cm
桃山-江戸時代
1610-1620年代

41 高取焼
— 掛分面取半筒茶碗※
福岡藩領 白旗山窯
高さ7.8 口径10.9cm
江戸時代
1630-1660年代

42 高取焼
— 筋文茶碗
福岡藩領 白旗山窯
高さ7.6 口径14.7cm
江戸時代
1630-1660年代

43 高取焼
— 飴釉瓢形茶入 銘「貯月」
福岡藩領 白旗山窯
高さ8.4 胴径6.5cm
江戸時代
1630-1660年代

44 高取焼
— 飴釉長茶入
福岡藩領 白旗山窯
高さ10.4 胴径3.9cm
江戸時代
1630-1660年代

45 高取焼
— 道化釉丸壺茶入
福岡藩領 白旗山窯
高さ5.8 胴径5.8cm
江戸時代
1630-1660年代

46 高取焼
— 飴釉大海茶入 銘「宝珠山」
福岡藩領 白旗山窯
高さ5.8 胴径8.7cm
江戸時代
1630-1660年代

47 高取焼
— 飴釉筒水指
福岡藩領 白旗山窯
高さ14.5 口径12.5cm
江戸時代
1630-1660年代

48 高取焼
— 黄釉荷葉形手付鉢※
福岡藩領 白旗山窯
高さ12.6 長さ23.0cm
江戸時代
1630-1660年代

49 高取焼
— 道化釉椀形向付 五客
福岡藩領 白旗山窯
高さ5.4 口径11.4cm
江戸時代
1630-1660年代

50 高取焼
— 飴釉笹耳水指
福岡藩領 小石原鼓窯
高さ13.3 胴径19.6cm
江戸時代
1660-1680年代

51 高取焼
— 飴釉茄子香合 大休軒芳園作
福岡藩領 大鋸谷窯
高さ6.9 胴径5.5cm
江戸時代
1680-1710年代

52 高取焼
— 黄釉白鷺盃洗
福岡藩領 東皿山窯
高さ12.9 口径19.4cm
江戸時代
1710-1870年代

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051 (代表) FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

唐津焼の概略

出品No.1-26

唐津焼は朝鮮半島の陶工によって現在の佐賀県唐津市北波多にあった岸岳城下で生産が始まります。

開窯は桃山時代・天正年間（1573～92）の後半にあたる1580年代後半から1590年前後と推定され、九州地方では初めて施釉陶器（人工的に釉薬を掛けた陶器）の生産が始まりました。

発掘調査の結果、岸岳城下には8カ所の古窯跡が見つかっており、いずれも甕や壺、片口、碗、皿などの日常雑器を主体に生産していたことがわかっています。

当時、唐津焼よりも早くから施釉陶器を生産し、京や大坂、堺などの大都市に流通していた美濃焼の窯場数が20から30カ所ほどですから、器種や窯場数、流通量とも草創期の唐津焼と美濃焼では圧倒的な差がありました。

しかし数年も経たないうちに唐津焼が市場競争において美濃焼を逆転することになります。

そのきっかけとなったのが「文禄・慶長の役（1592－98）」でした。

「文禄・慶長の役」とは天下統一を果たした豊臣秀吉が、中国・明の征服を目的に朝鮮半島に16万の軍勢で出兵し、明・朝鮮の連合軍と戦った戦役です。

この戦役は秀吉の死により終結しますが、その際、朝鮮半島に出兵していた鍋島直茂らが多くの朝鮮陶工を連れ帰り、新たに現在の佐賀県伊万里市、武雄市、有田町周辺の広範囲に窯場が築かれます。その数およそ50カ所以上にものぼり、未だ調査されていないものも含めると70から80カ所近く築かれたのではないかと推測されています。こうして唐津焼の窯場が美濃焼を抜いて、一挙に国内最大規模の生産地に躍り出ます。

この新たに築かれた窯場では日常雑器のほかに多種多様な茶陶が量産され、絵唐津や朝鮮唐津、奥高麗、瀬戸唐津など岸岳城下の窯場では見られなかった装飾的な茶陶が生産されます。特に筆で文様を描いた絵唐津はそれまで国内の窯業技術ではできなかった技法で、日本のやきものの装飾や表現の幅を大きく飛躍させることになります。

こうして唐津焼は窯場数や器種のラインナップに加え、舟を利用した大量輸送で日本海側ルートは北海道まで、瀬戸内海ルートは堺や大坂、京へ運ばれます。そして市場競争ではついに圧倒的なシェアを誇った美濃焼を抜いて逆転していきます。

しかし、桃山時代から江戸時代に変わる1610年代に入ると有田町で日本初となる磁器の生産が始められたことによって、次第に施釉陶器の需要が減り、染付磁器の需要が増えていきます。伊万里市周辺の窯場では有田町に移動する窯場や廃業する窯場が増加していく一方、武雄周辺の窯場ではそれまでの唐津焼にも無く、染付磁器にも無い象嵌技法の三島唐津や緑釉を施した二彩唐津を生産し、窯場の存続を計ることになります。

高取焼の概略

出品No.27-52

高取焼は「文禄・慶長の役（1592－98）」の際、朝鮮半島に出兵していた黒田長政が朝鮮陶工・八山（和名/高取八蔵）らを連れ帰り、現在の福岡県直方市にあった鷹取城下に永満寺宅間窯を開窯させたのが始まりです。開窯時期は黒田長政が豊前から筑前へ転封後まもない慶長7年（1602）頃と考えられています。

ここでは甕や壺、片口、碗、皿などの日常雑器が大半で、わずかに茶碗や茶入、水指などの茶陶を生産しています。

その後、慶長19年（1614）に内ヶ磯窯（福岡県直方市）を開窯させます。この頃、元唐津藩の陶工で瀬戸美濃系の窯業技術を知る五十嵐次左衛門らが福岡藩に召し抱えられ、高取八蔵らに加わります。

内ヶ磯窯では日常雑器のほか千利休没後に茶の湯をリードした古田織部の茶風を受け、左右非対称に歪みを加えた形に大胆な篋目を施した茶陶が生産されます。こうしたデザインは美濃焼をはじめ唐津焼、備前、信楽など全国の窯場に共通しており、当時、京都三条通りに店を構える瀬戸物屋（陶器商）が、各地の窯場に注文していたのではないかと考えられています。

しかし元和9年（1623）に黒田長政が死去すると、高取八蔵らは朝鮮への帰国を二代藩主黒田忠之に願い出ますが許されず、家禄を没収され、現在の嘉麻市山田へ蟄居を命じられます。この間、高取八蔵らは山田窯を築き細々と日常雑器を生産していたようです。

一方、内ヶ磯窯に残る五十嵐次左衛門らは茶陶生産を継続し、二代藩主黒田忠之の命により江戸幕府二代将軍徳川秀忠や三代将軍家光へ上覧にいれる茶入や茶碗、水指などを作っています。

寛永7年（1630）になると高取八蔵らは蟄居を許され、白旗山窯（福岡県飯塚市）を開窯させます。

この頃、高取八蔵と長男八郎右衛門は二代藩主黒田忠之の命により、古田織部没後に茶の湯をリードした小堀遠州のもとに派遣され、指導を受けます。その結果、白旗山窯では小堀遠州の茶風を受けた「きれいさび」と云われる左右対称の薄くシャープな形に繊細な釉景色の茶陶が生産されます。

以降、寛文5年（1665）には小石原鼓窯（福岡県朝倉市）、貞享年間（1684－88）には大鋸谷窯（福岡県福岡市）、享保元年（1716）には東皿山窯（福岡県福岡市）に転々と移動し、福岡藩の御用窯としての高取焼は明治4年（1872）の廃藩置県をもってその使命を終える事になります。

【一般財団法人田中丸コレクション 学芸員 久保山 炎】

作品リスト

※作品データの記載順序は、出品番号、産地、作品名、地域、窯名（不明の場合は省略）、寸法、時代、年代としました。
※桃山時代は美術史の区分に従い、室町幕府が滅亡する1573年から豊臣家が滅亡する1615年までとしています。
※作品名中「※」印は福岡市美術館蔵(参考出品)です。

1 唐津焼	2 唐津焼
— 奥高麗茶碗 銘「舟越」	— 奥高麗茶碗 銘「閑窓」
高さ9.7 口径14.7cm 桃山時代 1590－1610年代	高さ9.7 口径15.7cm 桃山時代 1590－1610年代

3 唐津焼	4 唐津焼
— 重文 絵唐津菖蒲文茶碗	— 瀬戸唐津茶碗 銘「波鼓」
高さ9.2 口径12.0cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代	高さ6.0 口径15.4cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代

5 唐津焼	6 唐津焼
— 唐津緑釉茶碗 銘「岸浪」	— 斑唐津丸壺茶入
高さ6.8 口径12.0cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代	唐津藩領 岸岳城下 帆柱窯 高さ5.0 胴径7.2cm 桃山時代 1580－1600年代

7 唐津焼	8 唐津焼
— 斑唐津ぐい呑	— 斑唐津ぐい呑
唐津藩領 岸岳城下 帆柱窯 高さ5.5 口径7.5cm 桃山時代 1580－1600年代	唐津藩領 岸岳城下 帆柱窯 高さ5.8 口径8.4cm 桃山時代 1580－1600年代

9 唐津焼	10 唐津焼
— 絵唐津木賊文茶碗	— 絵唐津点文茶碗 銘「奈須野」
唐津藩領 神谷窯 高さ9.1 口径12.5cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代	唐津藩領 道納屋谷窯 高さ7.5 口径11.1cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代

11 唐津焼	12 唐津焼
— 絵唐津草文水指	— 朝鮮唐津花入 銘「和美助」
佐賀藩領 阿房谷窯 高さ12.4 胴径17.8cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代	佐賀藩領 茅ノ谷窯 高さ20.2 最大径12.4cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代

13 唐津焼	14 唐津焼
— 朝鮮唐津壺水指	— 朝鮮唐津徳利
佐賀藩領 茅ノ谷窯 高さ18.8 胴径14.6cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代	佐賀藩領 茅ノ谷窯 高さ13.0 胴径8.4cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代

15 唐津焼	16 唐津焼
— 唐津徳利	— 唐津皮鯨ぐい呑
佐賀藩領 道園窯 高さ20.1 胴径11.8cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代	佐賀藩領 小森谷窯 高さ5.7 口径7.5 cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代

17 唐津焼	18 唐津焼
— 絵唐津松梅文皿	— 絵唐津草花文筒向付 五客
佐賀藩多久領 高麗谷古窯 高さ4.1 口径18.3cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代	佐賀藩多久領 高麗谷古窯 高さ9.0 口径5.2cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代

19 唐津焼	20 唐津焼
— 絵唐津草花文向付 五客	— 絵唐津鳥文向付 五客
佐賀藩武雄領 祥古谷窯 高さ4.2 口径12.6cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代	佐賀藩武雄領 小山路窯 高さ5.2 口径17.1cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代

21 唐津焼	22 唐津焼
— 絵唐津草花文向付 五客	— 三島唐津茶碗 銘「蓬萊」
佐賀藩武雄領 小山路窯 高さ6.0 口径16.7cm 桃山－江戸時代 1590－1610年代	佐賀藩武雄領 大草野窯 高さ8.7 口径13.0cm 江戸時代 1610－1630年代

23 唐津焼	24 唐津焼
— 三島唐津水指	— 三島唐津立鶴文大皿
佐賀藩武雄領 大草野窯 高さ17.2 胴径17.9cm 江戸時代 1610－1630年代	佐賀藩武雄領 小田志山窯 高さ6.0 口径38.4cm 江戸時代 1610－1630年代

25 唐津焼	26 唐津焼
— 唐津刷毛目茶碗	— 二彩唐津耳付花入
佐賀藩武雄領 小峠窯 高さ7.9 口径13.0cm 江戸時代 1610－1630年代	佐賀藩武雄領 焼峯窯 高さ18.5 胴径10.0cm 江戸時代 1610－1630年代